

川崎市総合計画市民検討会議・第2部会「子育て・教育」グループディスカッションまとめ H26.12.21

1 「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」

主に就学前

□ 保育の質を確保し、安心して育てられる不安のない保育環境の整備

- 待機児童をゼロにすることは必要であるが、待機児童に関する情報提供、病児保育、育児サポートなどの課題があるため、さらに一歩進んで、待機児童に対する不安をゼロにする、“実感ゼロ”を目指すべき。【行政】[グループ①]
- 公立よりも私立の保育園が増えている中で、保育の質を確保し、安心して預けられる保育環境を整備することが重要。【地域/行政】[グループ②]

□ 家庭で教え、地域や多世代で支える「伴走型」の環境づくり

- 家庭で大切なのは子どもの「伴走者」として教えることだが、多様な状況に応じて地域・行政が支えていることも重要。【家庭/地域/行政】[グループ①]
- 子育てをサポートしたいと思うベテラン世代もあり、子育てを気軽に相談できるネットワークづくりが重要。【地域/行政】[グループ①]
- 核家族化が進む中で、子育て世帯を多世代で支える環境づくりが大切。【家庭/地域/行政】[グループ②]

□ 安心・安全に楽しく遊べる遊び場づくり

- 幼児や小・中学生などみんなが安心・安全に楽しく遊べる場づくりが重要。【地域/行政】[グループ①]

□ 川崎市として必要なサービスの見極めと財源の多元化

- 周辺の自治体とサービスの違いがあり、川崎市として必要な福祉サービスを見極め、その戦略についての市民とのコミュニケーションが必要。【家庭/地域/行政】[グループ②]
- 税金や利用者負担以外のもの、たとえば保育園や公園のネーミングライツなどによって財源を捻出するなど、子育てサービスを支える財源を多元化することが重要。【行政】[グループ②]

キーワード：「伴走型子育て」

子育ての環境や家庭は多様なため、画一的な価値観やサービスではなく、本人の立場に立ち、それぞれの家庭の状況にあわせて「伴走」することである。これは青年期の「独りにしない」もつながる普遍的キーワードである。

2 「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」

主に学校教育

□ 川崎市の資源や魅力を最大限に生かし、家庭・地域・行政が連携して、主体性・創造性を育む環境づくり

- 川崎市にはハイテク企業や文化芸術などの魅力的な資源がたくさんあるため、これらを最大限に活かして、子どもたちが将来こうなりたい、こういう仕事に就きたいというビジョンや希望を育む体験の場を提供することが重要。【地域/学校・行政】[グループ①]
- 子どもの主体性や創造性を養うことが大切であり、そのための余暇や遊びの時間を地域で提供できるように行政がサポートしていくことが必要。【地域/学校・行政】[グループ①]
- 子どもの好奇心・集中力を育てる交流・コミュニケーションを、家庭・地域・行政で連携して支えていくことが重要。【家庭/地域/学校・行政】[グループ①]

□ 地域の色々な人材が学校教育にかかわる機会づくり

- せめて小学校は「100%わかる」を目標にしたい。多様な子どもの状況に応じ、学力・人間力の向上に向けて、地域・学校が一体となって取り組む必要がある。【地域/学校・行政】[グループ①]
- 学校だけでなく、地域でコミュニティスクールの資源をつくり、プロ人材、地域の高齢者、企業人、ボランティア等の地域のいろいろな人材が学校教育に関わる機会をつくることが重要。【家庭/地域/学校・行政】[グループ②]

□ 学力・人間力の向上と自尊心としつけを身につけるカリキュラム・学校運営の実現

- 子どもが生きがいを持って生きていくためには、自尊心としつけを身につける学びを中心においたカリキュラム・学校運営が重要。【家庭/地域/学校・行政】[グループ②]
- 先生が忙しく、授業準備以外にも書類整理やモニターペアレントなどへの対応に追われることも多く、自信をなくしがちなため、まずは先生に自信を持ってもらうことが大切。【地域/学校・行政】[グループ②]

キーワード：「場づくり」

遊び場をつくる、大人がかかわる機会をつくる、ということにもつながる。地域に開かれた学校運営も、1つの「場づくり」である。

3 「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」

主に若者

□ 多世代が交流し、気軽に集まり相談できるふるさとづくり

- 学童をはじめ、多世代が気軽に相談・交流し、職業など多機能に交流できる機会など、ふるさとづくりが大切。【地域/行政】[グループ①]

□ 子どものころから働くよさや価値観をリアルに感じられる学びの機会づくり

- 家庭で働く喜びを伝え、さまざまな職業の達人と話す機会など、働く価値観を子どものときから考え、育成する仕組みづくりが大切。【家庭/地域/行政】[グループ①]
- 働くよさや仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、具体的な形で中間就労の機会をつくり、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会を教育段階で多様に用意すべき。【家庭/地域/行政】[グループ②]

□ 多様な市民が支え合うコミュニティづくり

- 多様な市民が支え合うコミュニティづくりが重要。【地域/行政】[グループ①]
- 「辛い状況にある人を独りにしない！」ために、困難な状況にある若者を抱える家族を地域で支え、独りにしないことが重要。地域で引きこもっている若者が地域で活躍できる場をつくる。【家庭/地域】[グループ②]

□ 家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組み、適切な役割分担で若者を支援するしくみづくり

- 家庭・地域・行政が負担を分担しながら、一か所に集中しない取組が重要である。【家庭/地域/行政】[グループ①(発表者追加)]
- 「若者の自立」に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要があり、その財源としては国や市で役割分担をした方がよい。【家庭/地域/行政】[グループ②]

□ 再チャレンジできる若者のキャリア支援・就職支援のしくみづくり

- 再チャレンジできるキャリア支援と就職支援の情報提供も重要。【行政】[グループ①]

キーワード：「実感・リアル」

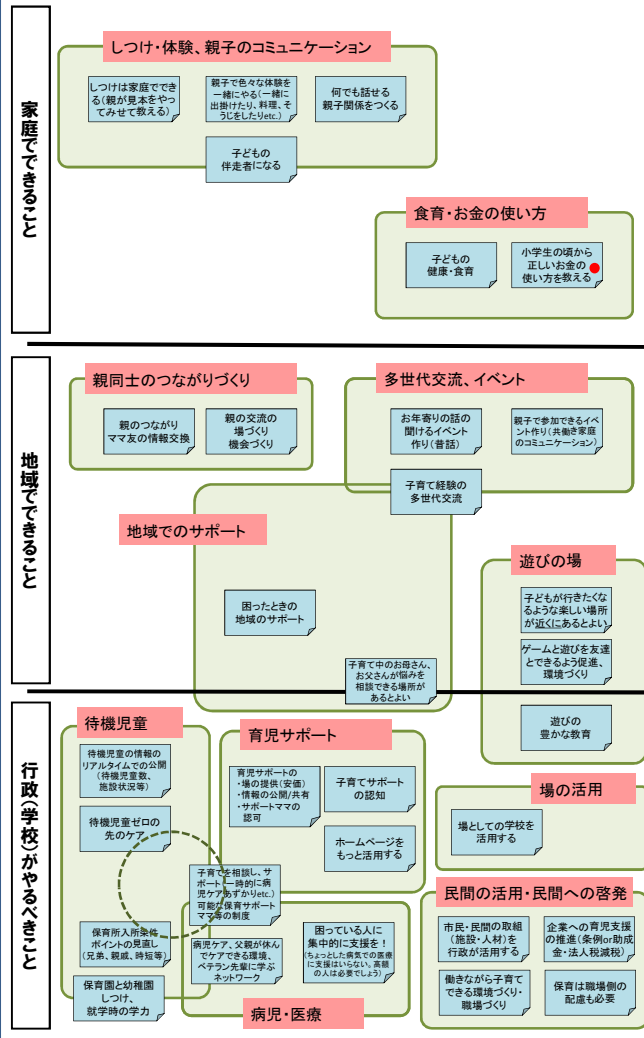
「働くリアリティを感じる」という意見があり、「働くよさ」という言葉も出ていた。実感することで教育の効果が高まり、就業意欲も高まる。

第2部会における意見のまとめ

重点検討テーマ・分野	まとめのキーワード	部会における主な意見	分類			グループ	
			家庭	地域	行政学校		
2 子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり (1)子育て環境の整備	就学前	待機児童をゼロにすることは必要であるが、待機児童に関する情報提供、病児保育、育児サポートなどの課題があるため、さらに一歩進んで、待機児童に対する不安をゼロにする、“実感ゼロ”を目指すべき。			●	1	
		公立よりも私立の保育園が増えている中で、保育の質を確保し、安心して預けられる保育環境を整備することが重要。		●	●	2	
		家庭で大切なのは子どもの「伴走者」として教えることだが、多様な状況に応じて地域・行政が支えていくことも重要。	●	●	●	1	
		核家族化が進む中で、子育て世帯を多世代で支える環境づくりが大切。		●	●	1	
		子育てをサポートしたいと思うベテラン世代もあり、子育てを気軽に相談できるネットワークづくりが重要。	●	●	●	2	
		安心・安全に楽しく遊べる遊び場づくり	幼児や小・中学生などみんなが安心・安全に楽しく遊べる場づくりが重要。		●	●	1
		川崎市として必要なサービスの見極めと財源の多元化	周辺の自治体とサービスの違いがあり、川崎市として必要な福祉サービスを見極め、その戦略についての市民とのコミュニケーションが必要。	●	●	●	2
			税収や利用者負担以外のもの、たとえば保育園や公園のネーミングライツなどによって財源を捻出するなど、子育てサービスを支える財源を多元化することが重要。			●	2
2 子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり (2)未来を担う人材の育成	学校教育	川崎市の資源や魅力を最大限に生かし、家庭・地域・行政が連携して、主体性・創造性を育む環境づくり	川崎市にはハイテク企業や文化芸術などの魅力的な資源がたくさんあるため、これらを最大限に活かして、子どもたちが将来こうなりたい、こういう仕事に就きたいというビジョンや希望を育む体験の場を提供することが重要。		●	●	1
			子どもの主体性や創造性を養うことが大切であり、そのための余暇や遊びの時間を地域で提供できるように行政がサポートしていくことが必要。		●	●	1
			子どもの好奇心・集中力を育てる交流・コミュニケーションを、家庭・地域・行政で連携して支えていくことが重要。	●	●	●	1
		地域の色々な人材が学校教育にかかわる機会づくり	せめて小学校は「100%わかる」を目標にしたい。多様な子どもの状況に応じ、学力・人間力の向上に向けて、地域・学校が一体となって取り組む必要がある。		●	●	1
			学校だけでなく、地域でコミュニティスクール的な資源をつくり、プロ人材、地域の高齢者、企業人、ボランティア等の地域のいろいろな人材が学校教育に関わる機会をつくるのが重要。	●	●	●	2
	若者	多世代が交流し、気軽に集まり相談できるふるさとづくり	学童をはじめ、多世代が気軽に相談・交流し、職業など多機能に交流できる機会など、ふるさとづくりが大切。		●	●	1
		子どものころから働くよこびや価値観をリアルに感じられる学びの機会づくり	家庭で働く喜びを伝え、さまざまな職業の達人と話す機会など、働く価値観を子どものときから考え、育成する仕組みづくりが大切。	●	●	●	1
			働くよこび・仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、具体的な形で中間就労の機会をつくり、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会を教育段階で多様に用意すべき。	●	●	●	2
		多様な市民が支え合うコミュニティづくり	多様な市民が支え合うコミュニティづくりが重要。		●	●	1
			「辛い状況にある人を独りにしない！」ために、困難な状況にある若者を抱える家族を地域で支え、独りにしないことが重要。地域で引きこもっている若者が地域で活躍できる場をつくる。	●	●		2
	家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組み、適切な役割分担で若者を支援するしくみづくり	家庭・地域・行政が負担を分担しながら、一か所に集中しない取組が重要である。	●	●	●	1	
		「若者の自立」に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要があり、その財源としては国や市で役割分担をした方がよい。	●	●	●	2	
	再チャレンジできる若者のキャリア支援・就職支援のしくみづくり	再チャレンジできるキャリア支援と就職支援の情報提供も重要。			●	1	

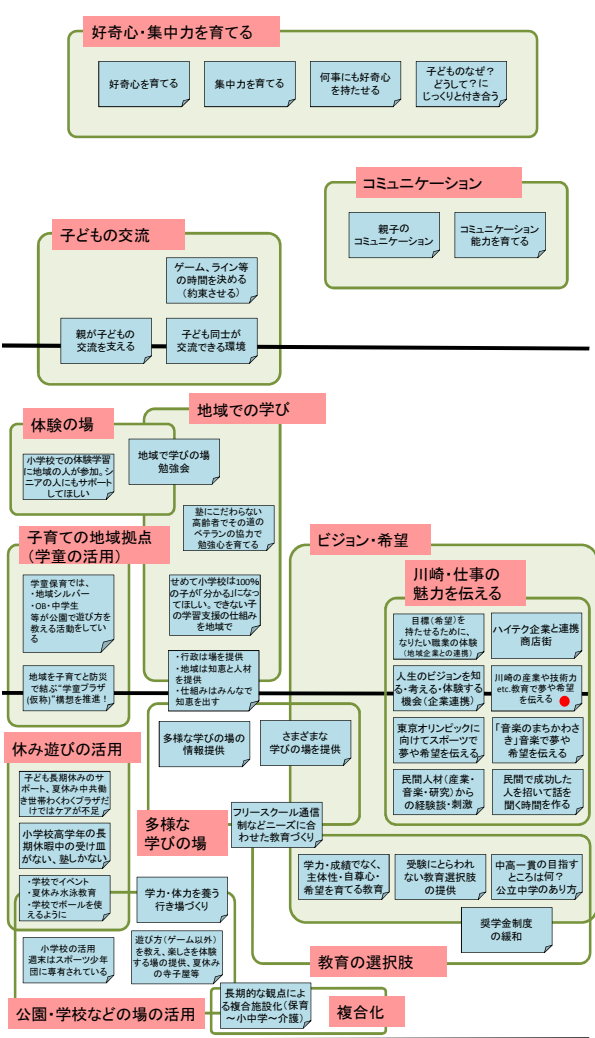
川崎市総合計画市民検討会議・第2部会 グループディスカッションまとめ【グループ1】H26.12.21

1 「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」(主に就学前)



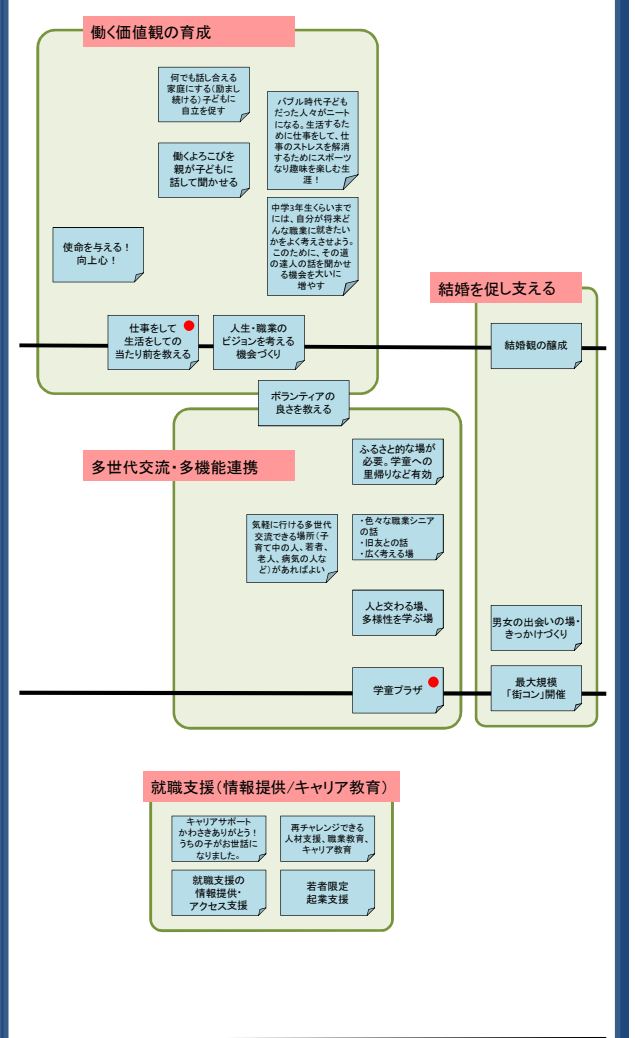
- 待機児童の不安のない“実感ゼロ” ●
- 伴走型子育てを支える地域・行政 ●●●
- 子育てを気軽に相談できるネットワークづくり ●
- 多様性を受け入れる開かれた地域づくり
- 安心・安全で年代に応じた楽しい遊び場づくり ●●

2 「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」(主に学校教育)



- 川崎の資源の魅力を最大限に活かしたビジョン・希望を育む体験の提供 ●●
- 子どもの主体性・創造性を養う余暇・遊びを支える地域づくり・行政のサポート
- 子どもの好奇心・集中力を育てる交流・コミュニケーションを支える家庭・地域・行政
- 「100%わかる」を支える地域・学校づくり ●

3 「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」(主に若者)

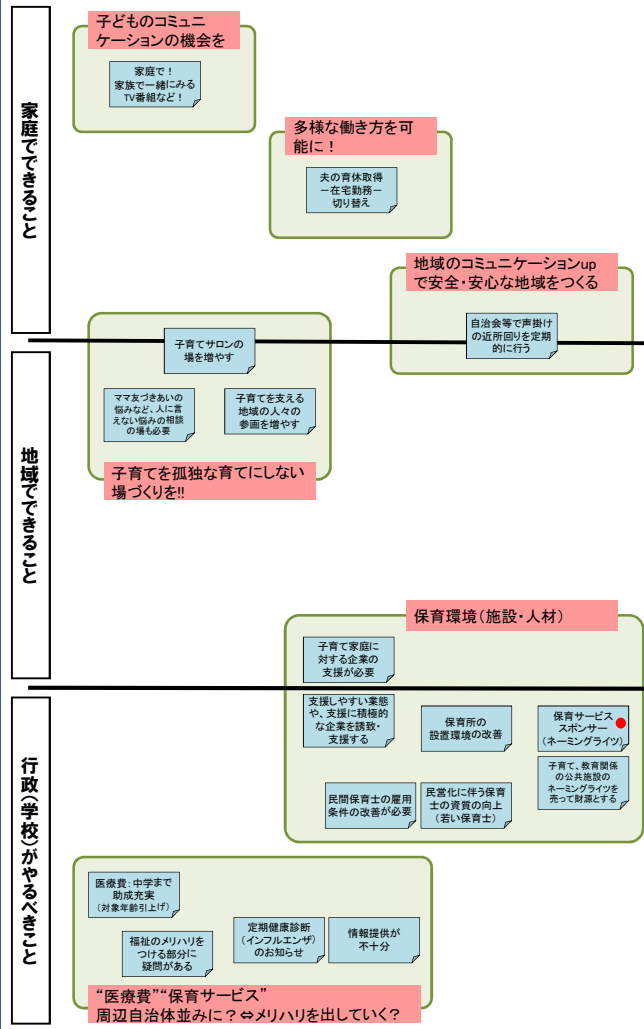


- 多世代が交流・多機能が連携し、気軽に集まれるかわさきのふるさとづくり ●
- 働くよこごび・価値観を子どものときから考える仕組みづくり ●●●
- 多様な市民が支え合うコミュニティづくり ●●●
- 再チャレンジできるキャリア支援と就職支援の情報提供

まとめ

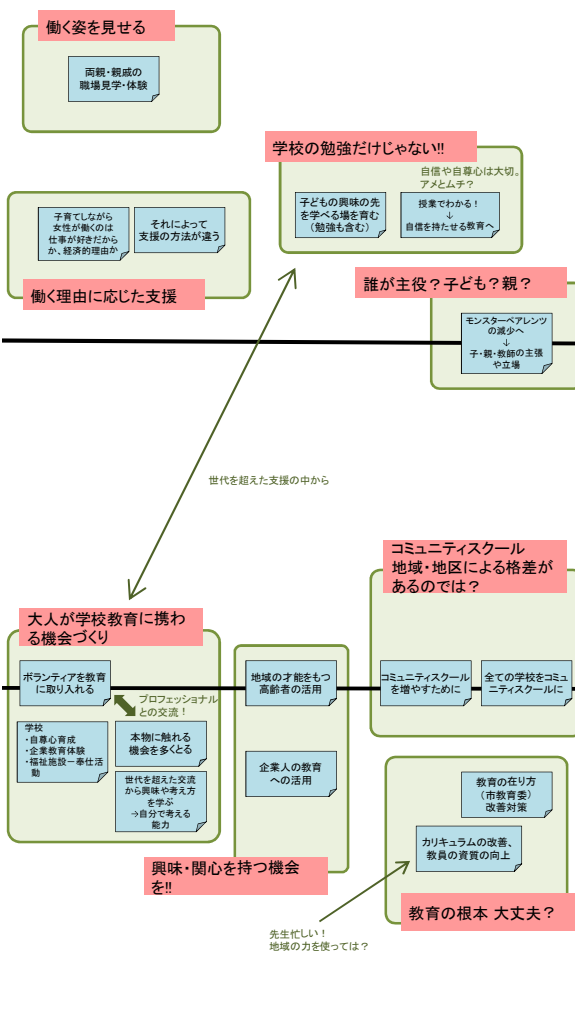
川崎市総合計画市民検討会議・第2部会 グループディスカッションまとめ【グループ2】H26.12.21

1 「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」(主に就学前)



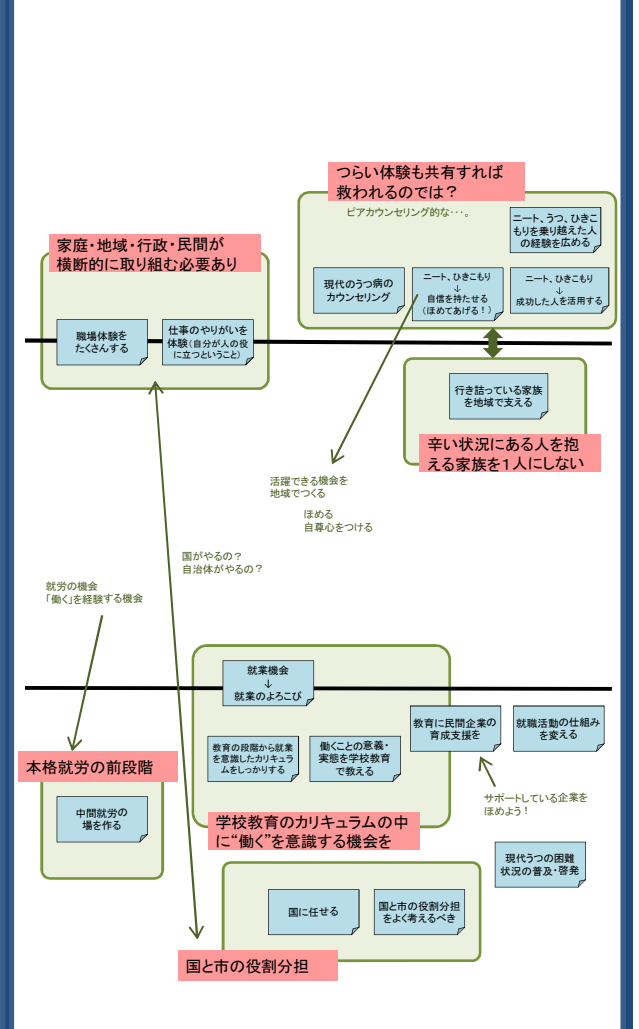
- 子育て世帯を多世代で支えるしくみづくり ●●●
 - 交流の場づくり、集える環境をつくる
- 川崎市として必要な福祉サービスの見極め ●●
 - 周辺自治体との比較
 - メリハリをつける or 周辺自治体と同水準を目指す
- 安心して預けられる保育環境の整備
 - 施設、人材
- 子育てサービスを支える財源の多元化 ●
 - 税・利用者負担以外の財源の確保

2 「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」(主に学校教育)



- 大人が学校教育に関わる機会を作る!! ●●●●
 - プロ人材、地域の高齢者、企業人、ボランティア
 - コミュニティスクールの増設など (学校の施設以外にも地域で使える資源があるのでは?)
- 子どもの学びを中心としたカリキュラム・学校運営
 - ムダな事務を減らせないのか? 先生を追い込まない環境を整備し、先生にも自信を
 - 子どもには自尊心と必要なしつけを

3 「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」(主に若者)



- 辛い状況にある人を1人にしない!! ●●
 - ピアカウンセリング: 困難な状況にある若者を抱える家庭の支援を地域で
 - 普及・啓発
 - 引きこもりの若者が地域で活躍する場をつくる
- “働く”をリアルに感じる機会づくり ●●●●
 - 中間就労の機会をつくる
 - 教育段階での情報提供、体験機会を多様に!!
- “若者の自立”に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要あり!! ●

まとめ